

寝ても覚めても 夢の中

しりあがり寿さん、中京で個展

マンガ家のしりあがり寿さん、中京区の京町家で「夢の中 夢を見る」展を開いている。トビト」を連載しているしりあがりの中心は、壁、天井、床を、がりさんは、マンガ以外にも、絵で埋め尽くした「夢の寝」。実際に泊まることもでき、異色の展覧会だ。

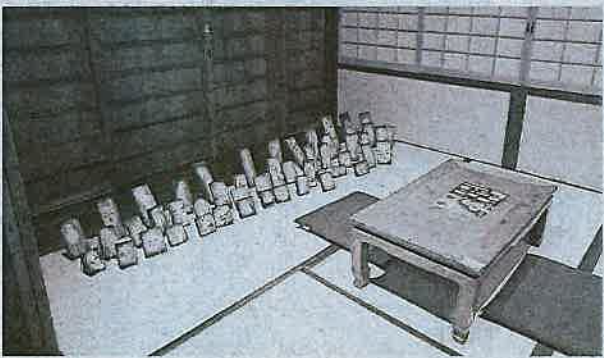
朝日新聞夕刊に20年にわたって4コマ漫画「地球防衛家のヒトビト」を連載しているしりあがりの中心は、壁、天井、床を、がりさんは、マンガ以外にも、絵で埋め尽くした「夢の寝」。実際に泊まることもでき、異色の展覧会だ。



京町家の部屋一面に墨絵 宿泊も可

の制作を引き受けた。しりあがりさんは「マンガは下書きしてその通りに描かないといけないが、そういうのばかりでは嫌なので、最後を決めない墨絵も20年描いている。宿屋に描くので、眠りをテーマにすることに」と話す。

個展を開催するのは、京町家を借り上げて一棟貸しの宿にしているアールスクウェア（下京区）。社長の秦強さん（45）は「京都の伝統と現代アートというギャップのあるものを融合させたら、面白いのではないかと企画した」と話す。同社は6棟の京町家を貸し宿「蔵や」として運営しており、今回は「蔵や千本三条」を会場にした。



京町家の2階にはしりあがり寿さんの作品が展示されている。いずれも中京区の「蔵や千本三条」

紙が張られ、しりあがりさんが、9月28日から5日間かけ墨絵を描いた。事前に何を描くかは決めず、天井にバクのを描くことから始めて、隣へへと思いつくまま筆を進めて大なスペースを埋めていった。どの絵もしりあがりさんならではの洒脱なもので、よく見ると、五山の送り火や京都三條一、宿の近くにある京都三條商店街もある。とりとめのな絵に包まれる夢の中のような間が生まれた。宿泊できることもあり、しりあがりさんは「き当たりばつたりに描いた墨は、整合性のない夢のような。夢の中で見る夢があってもいいのでは」。

秦さんは2018年から一貸しの事業に携わっている。町家をリノベーションして、多くの人にその良さを知ってもらいたいとの思いからだ。だが、新型コロナウイルスの影響で、この2年は苦しい状況がいていた。秦さんは「宿泊が口の月が何カ月もあった。が、11日には全国旅行支援がまり、11月以降は外国人の方予約も少しずつ入るようになってきた。今回のチャレンジをじて、京都を盛り上げていきたい」と話した。

展覧会は11月6日まで（10月18、19、22、23、11月1、2休み）。開館時間は正午から午後5時。無料。10月15日と16日にはしりあがりさんのトークイベントがあり、墨絵は会終了後に販売予定だ。問い合わせは「蔵や」（075・5327722）。（西田健作）

二条城×現代アート

あすまで見本市 デジタル作品も

城の中に現代アート作品 ト「ART KYOTO 2」が、二条城（中京区）で、16日まで開かれている。二条城を管理しイベントに関わる京都市は、歴史的な建造物で開催される見本市が国内外から注目されるれば、アート市場としての経済活性化や京都の新たな価値につながると期待している。

区）で、16日まで開かれている。二条城を管理しイベントに関わる京都市は、歴史的な建造物で開催される見本市が国内外から注目されるれば、アート市場としての経済活性化や京都の新たな価値につながると期待している。

した、映像作品もある。これらの作品やデータには価格が付けられ、その場で買うこともできる。アートの見本市は、ブースに区切られた中で展示するのが一般的だが、今回は歴史的建造物の中に作品が配置されている。イベント

